



ただし  
正 雲 南

**問**

スキー観光の振興対策は

**答**

首都圏のファミリー層をターゲットに展開する

**問** スキー客の減少に歯止めがかからず、基幹産業であるスキー観光の行く末が心配されるが、湯沢観光の原点であるスキー観光を守り、発展させる為の今冬の取り組みは。

**答** 限られた予算の中でより効果的に宣伝効果を上げるために、スキーを楽しむ層が一番多い30代を中心とした首都圏のファミリー層をコアターゲットとして展開する。

**問** 湯沢はスキーのメッカである。シニア層を含みターゲット

を広くして、各スキー場の特性を生かす展開が必要ではないか。

**答** いろいろな情報を確認する中で、数の多い年代をターゲットと考えたが、スキー観光を全体に向けて発信すべきであり、指摘のとおりである。

**問**

アメリカ合衆国  
マグナ訪問による  
国際交流の展開は

**答**

姉妹都市交流を町民の意見を聞いた中で行いたい

**問** 国際姉妹都市提携先としてマグナを決定し7年、80人を超える中学生が派遣され、

今年が町長、議長、総務文教委員長が訪問しいよいよ姉妹都市提携の時が来たが。

**答** 自らの目でマグナを見て、人々に接する中で、中学生がホームステイを通して語学や国際感覚を養うためには全米といわれる治安の良さや素晴らしい環境が確認できた。姉妹都市としての交流を町民の意見を聞いて行いたい。

**問**

地域と共にある  
学校づくり、  
学校運営協議会の  
設置を

**答**

前向きに考えているが、結論については時間をいただきたい

**問** 平成26年開校の小中一貫教育校の教育方針実現に向けて、地域の人達が学校運営に参画できる学校運営協議会の設立を。

**答** この制度を活用している県内の教育委員会から情報提供を受け、成果と課題を検証している。時間をいただき前向きに考えたい。

**問**

三国三俣地域の  
高校生の  
通学環境の整備を  
早急に

**答**

学校統合を待たずに  
行う必要があるので、  
早急に取り組みたい

**問** 三国地域から高校に通う高校生は登下校時のバスが電車とくまく接続できず、通学先が限定され、保護者の送迎に頼らざるを得ない。交通費にも多額の費用を要し、憲法に保障された勉学の機会均等の精神に反し、多くのハンディが生まれている。三国三俣地域の中学3年生9人が進路を決定する時期が迫っていることから、早急の対策を願いたい。

**答** バスの運行時間については高校の通学に足りるよう早急に申し入れを行う。交通費の出費についても高校生に限定せずこれから充分検討したい。

**問**

越後湯沢  
全国童画展の開催は  
民間の実行委員会で

**答**

文化活動に係る人たちの  
意見を聞きながら、  
今後の運営体制や  
運営形態について検討したい

**問** 16回目を迎える全国童画展の開催が、町の企画運営に移り、実行委員会の組織は運営の手伝いとなっている。生涯学習の目標である「人が育ち、自立する湯沢町民の育成」の実現のためにも、全国童画展開催の企画運営は民間の実行委員会に任せ、町はサポートにまわるべきではないか。

**答(教育長)** 実行委員会の位置づけが不明確であり、委員はボランティアで責任の所在がはっきりしないことから、組織強化のため第11回から町で開催してきた。多くの町民から主体的にかかわり童画展を作り上げることは大事なことで認識し、より良い形になるよう検討したい。